

(10)-2) 胃

胃については、年齢調整罹患、死亡および階級別罹患、死亡において本県のそれは男女とも全国より低い値に推移した。

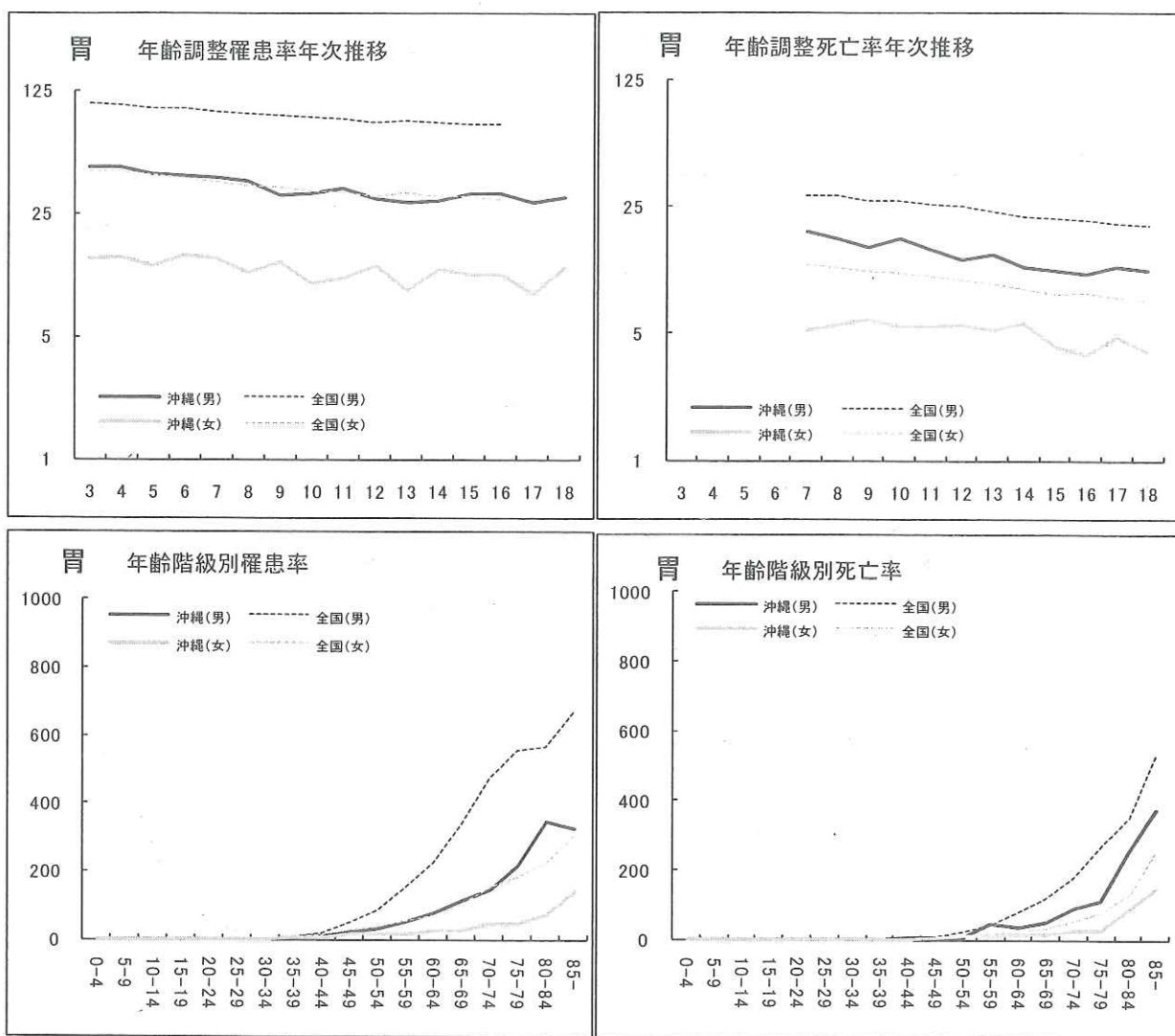


図7-2 年齢調整罹患率年次推移、年齢調整死亡率年次推移、年齢階級別罹患率、年齢階級別死亡率 沖縄県、全国比較 胃(人口10万対)

(10)-3) 気管支・肺

気管支・肺については、年齢調整罹患率及び死亡率年次推移について、減少傾向を呈し、近年ではほぼ全国の値に近似した。階級別罹患率及び死亡については、高齢層で本県は全国を上回る値を示した。

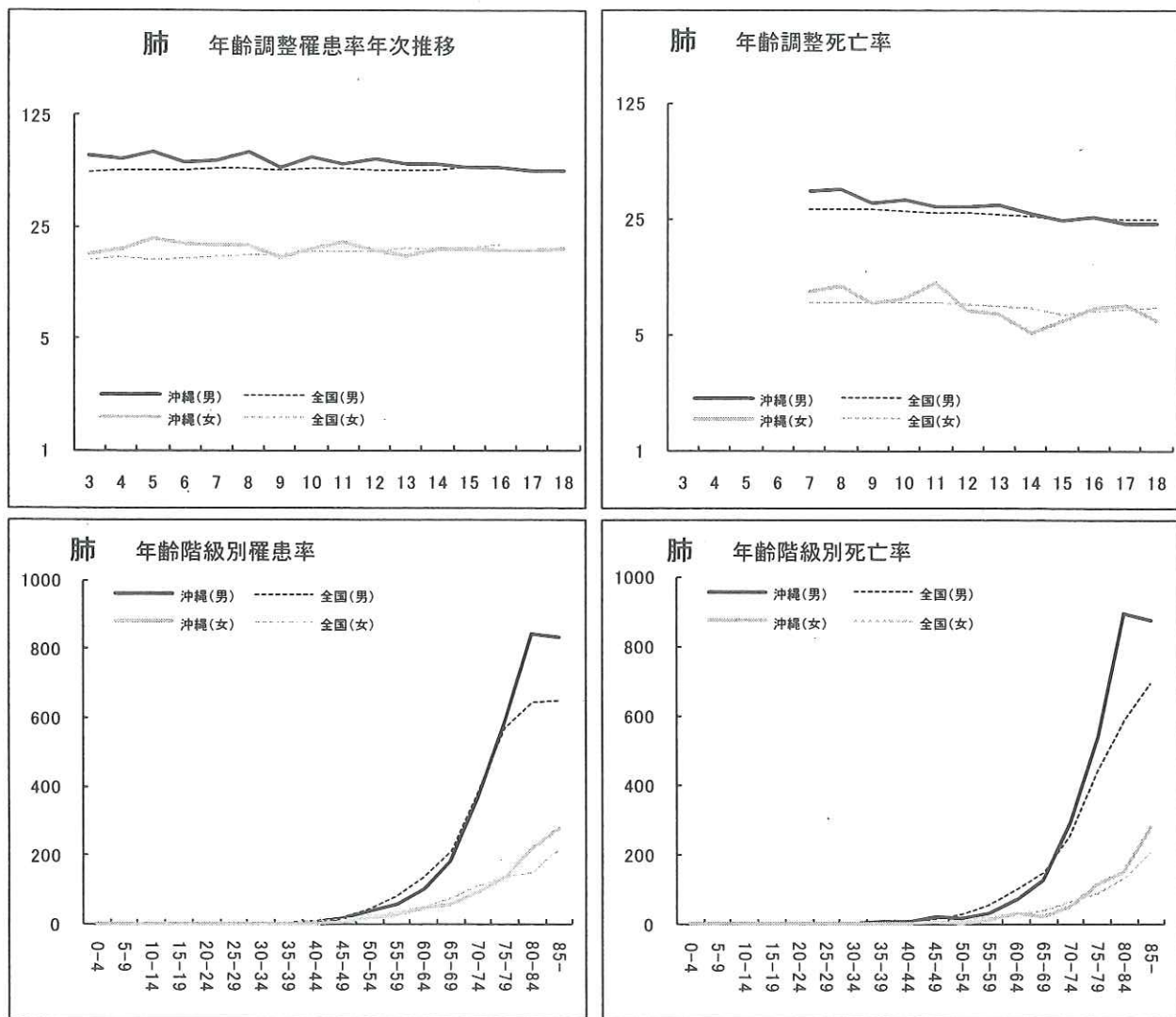


図7-3 年齢調整罹患率年次推移、年齢調整死亡率年次推移、年齢階級別罹患率、年齢階級別死亡率 沖縄県、全国比較 気管支・肺(人口10万対)

(10)-4) 大腸

大腸については、年齢調整罹患及び階級別罹患では本県は全国より低く推移しているが、年齢調整死亡及び階級別死亡では全国に近似した値を示し、一部上回る結果となった。

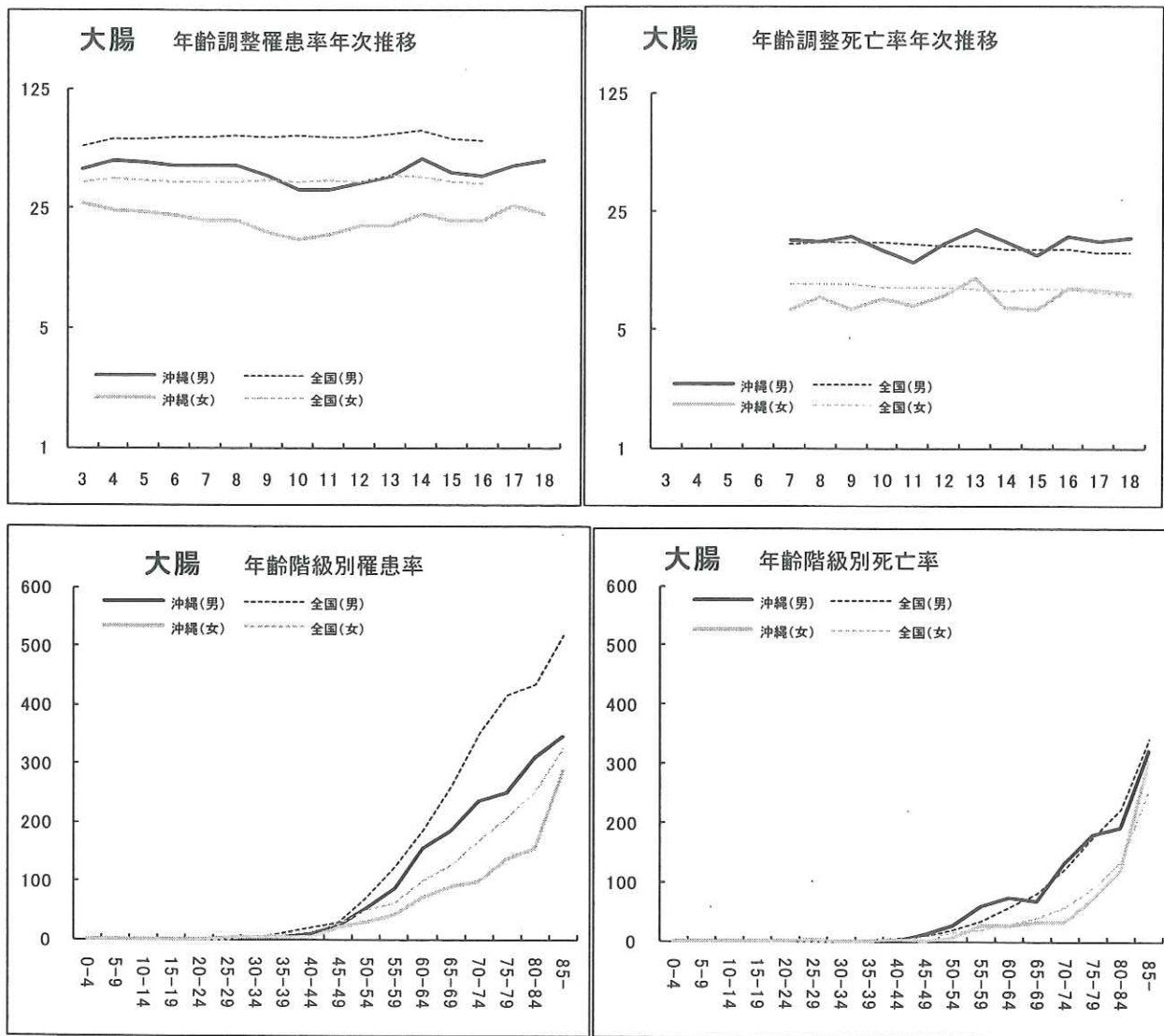


図7-4 年齢調整罹患率年次推移、年齢調整死亡率年次推移、年齢階級別罹患率、年齢階級別死亡率 沖縄県、全国比較 大腸(人口10万対)

(10)-5) 肝臓

肝臓については、それぞれの数値について、本県は全国より明確に下回る値を示した。

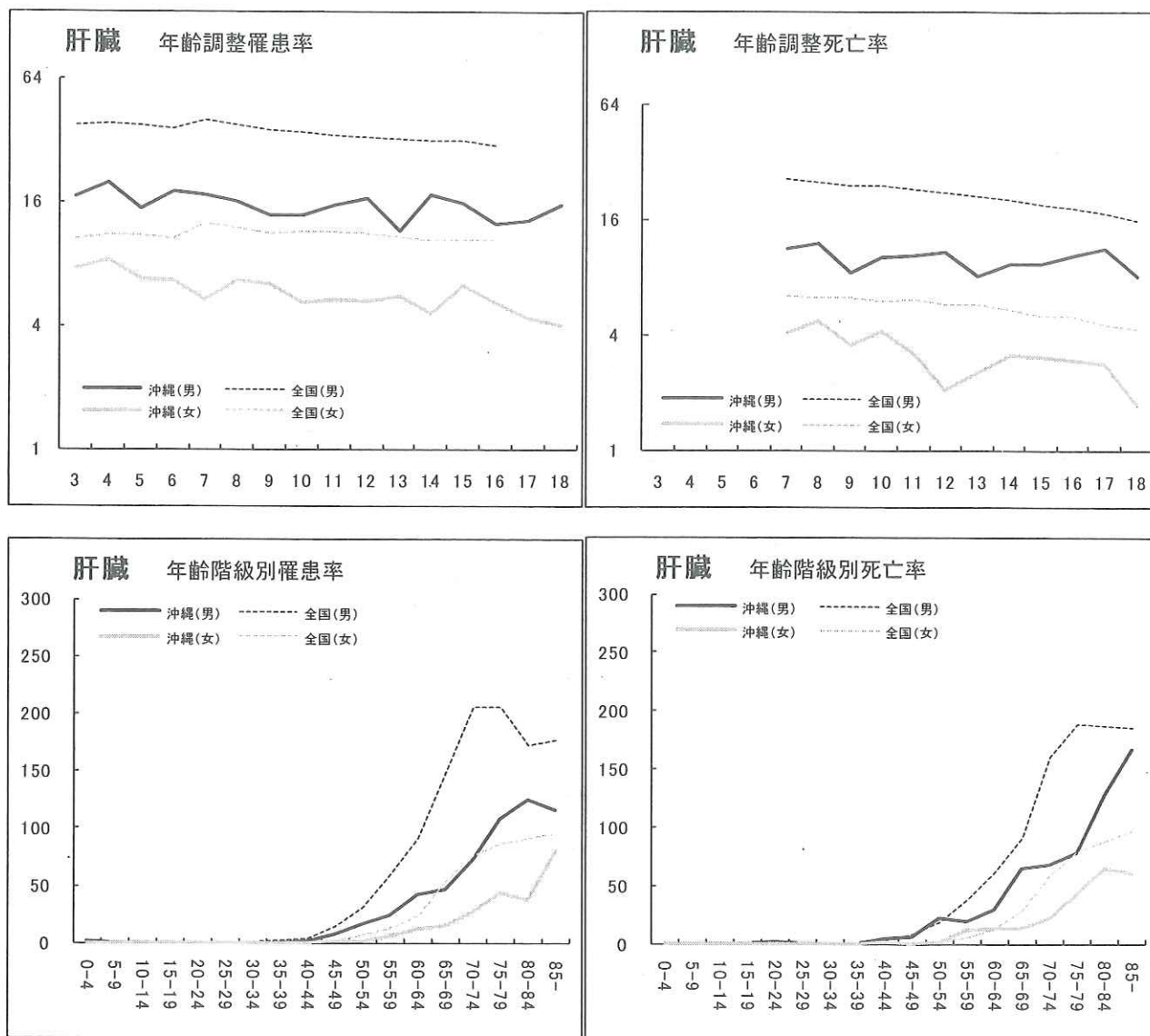


図7-5 年齢調整罹患率年次推移、年齢調整死亡率年次推移、年齢階級別罹患率、年齢階級別死亡率 沖縄県、全国比較 肝臓(人口10万対)

(10)-6) 前立腺

前立腺については、年齢調整罹患率及び階級別罹患率では全国と明確に下回っているが、年齢調整死亡率、階級別死亡率ではあまり差異が認められない結果となった。

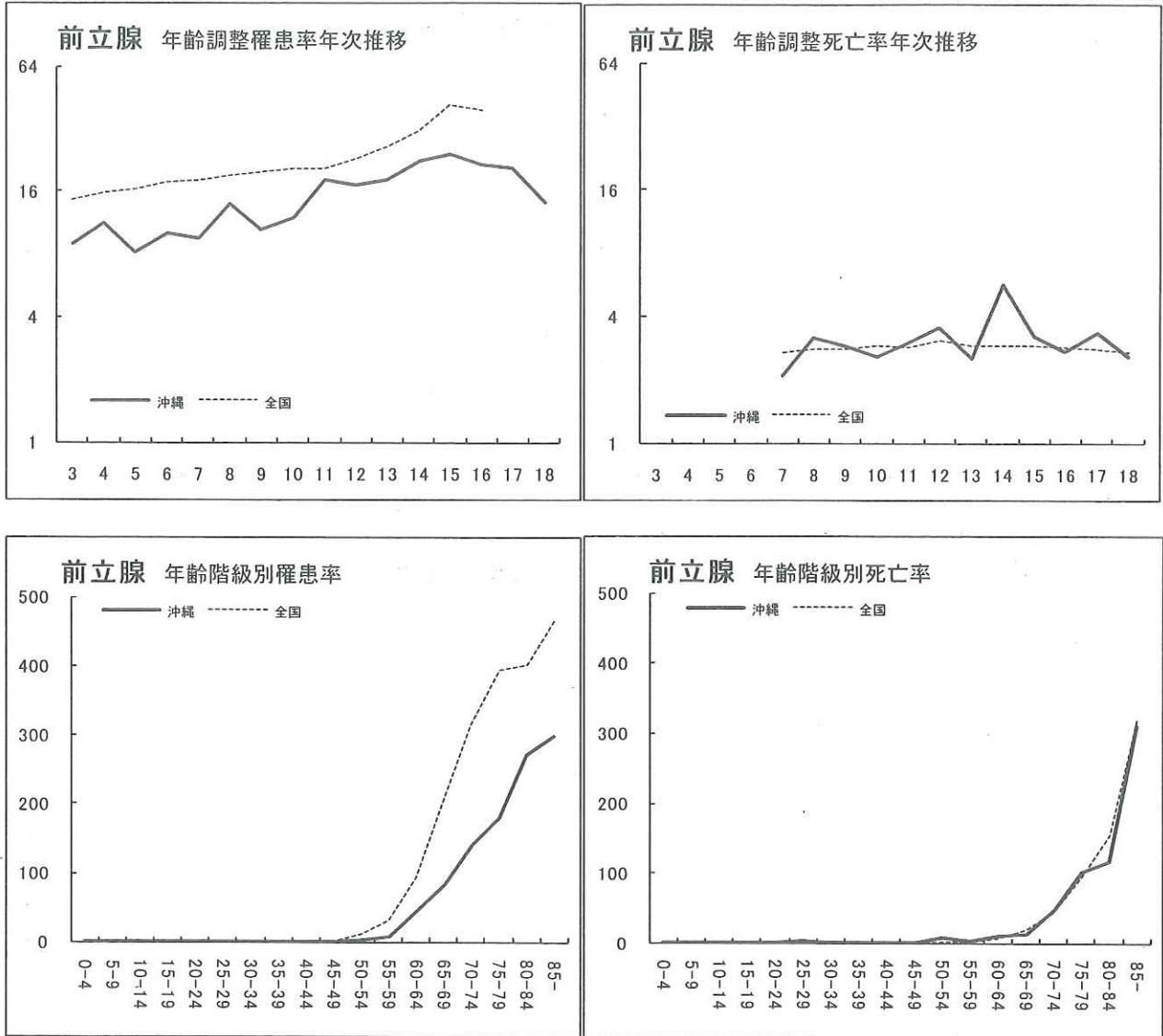


図7-6 年齢調整罹患率年次推移、年齢調整死亡率年次推移、年齢階級別罹患率、年齢階級別死亡率 沖縄県、全国比較 前立腺(人口10万対)



(10)-7) 乳房

乳房については、年齢調整罹患率年次推移で前年より大きく減少したが、年齢調整死亡率年次推移では前年より僅かに上回る値となった。

年齢調整死亡率及び階級別死亡率では全国と概ね類似した値を示した。

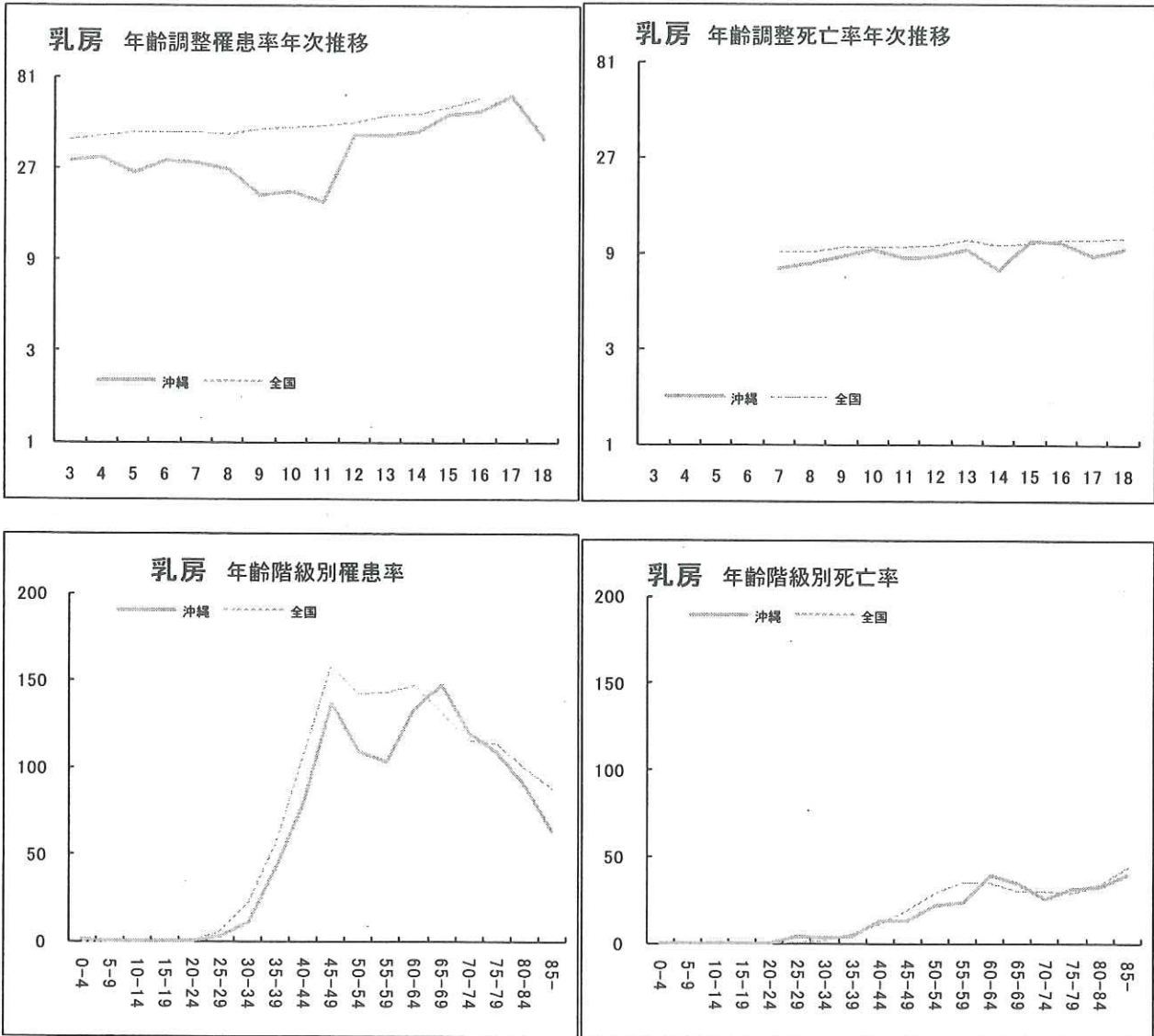


図7-7 年齢調整罹患率年次推移、年齢調整死亡率年次推移、年齢階級別罹患率、年齢階級別死亡率 沖縄県、全国比較 乳房(人口10万対)

(10)-8) 子宮

子宮については、年齢調整罹患率及び階級別罹患率と、年齢調整死亡率、階級別死亡率とで傾向の違う値となった。

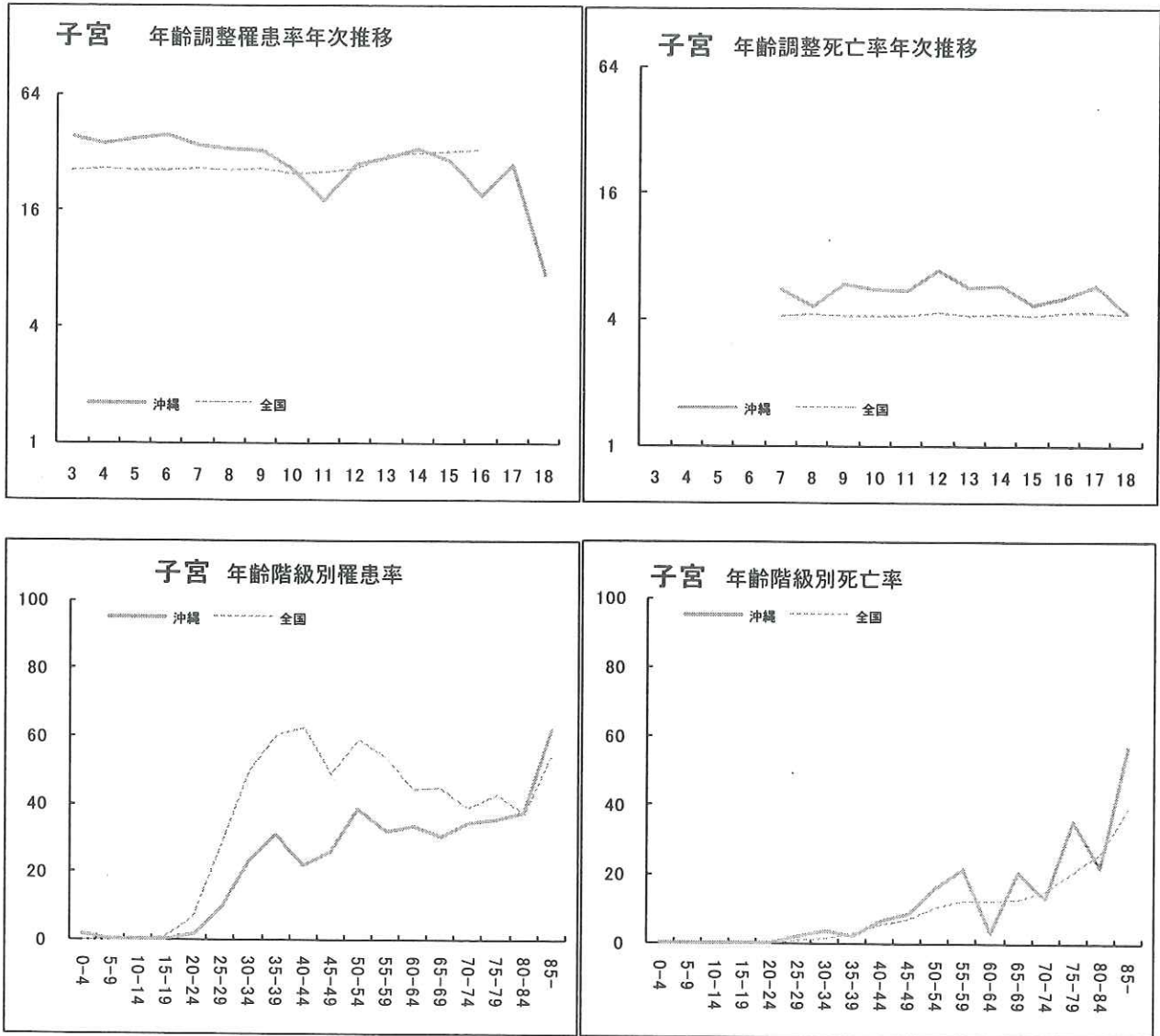


図7-8 年齢調整罹患率年次推移、年齢調整死亡率年次推移、年齢階級別罹患率、年齢階級別死亡率 沖縄県、全国比較 子宮(人口10万対)

(11) 主要部位以外及び主要部位詳細部分における年齢階級別罹患率(沖縄県、全国比較)

(11)-1) -口腔・咽頭、食道、結腸、直腸、胆嚢・胆管、膵臓-

胃、気管支・肺、大腸等の主要部位以外及び主要部位詳細部分について、年齢階級別罹患率による比較を行った結果、下記図8のとおりとなった。口腔・咽頭については、本県男性は全国値を上回る結果となった。結腸、直腸については、本県の男女とも全国値を下回る結果となった。

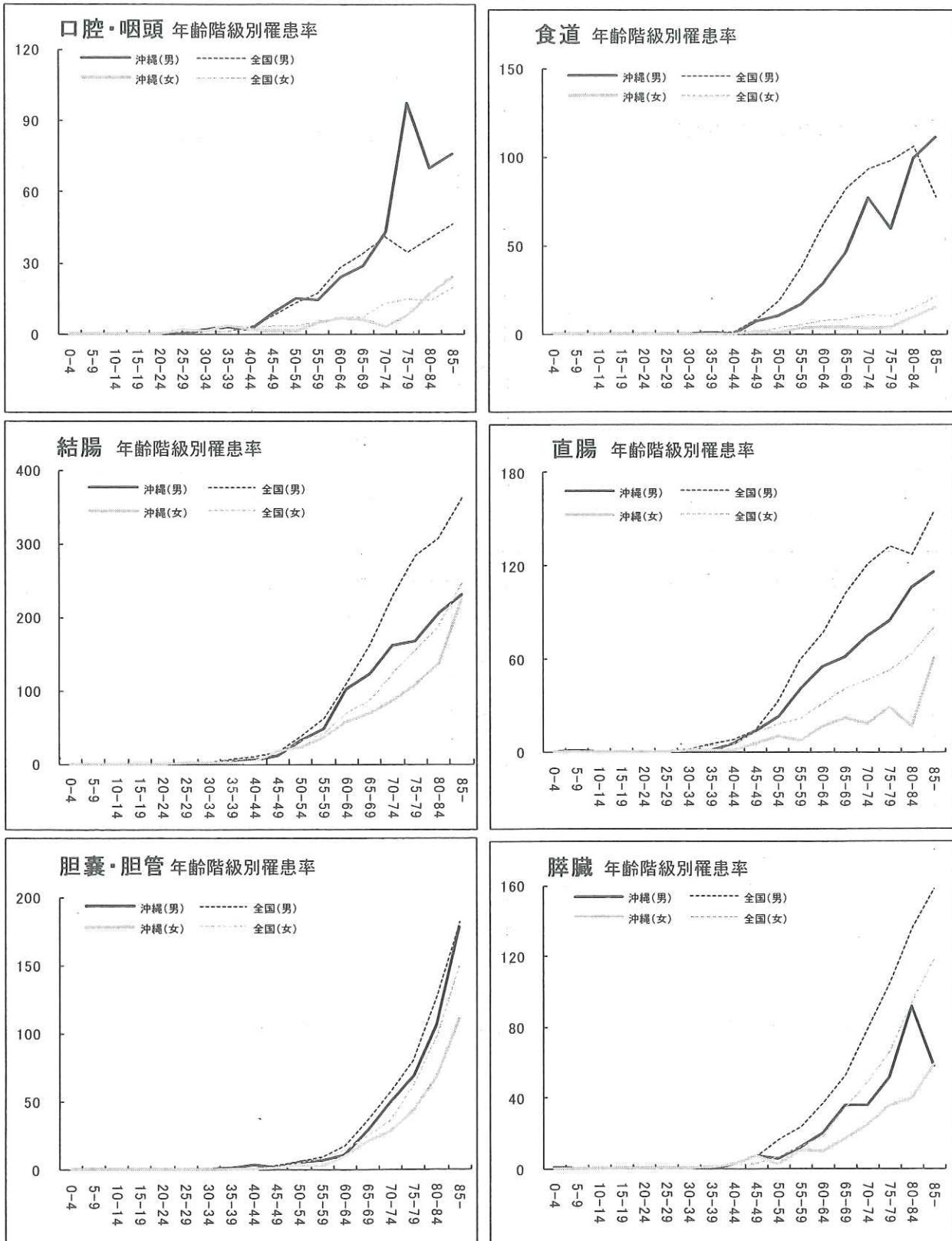


図 8-1 主要部位以外等の年齢階級別罹患率比較(沖縄県、全国) (口腔・咽頭、食道、結腸、直腸、胆嚢・胆管、膵臓) (人口 10 万対)※ 年齢階級別罹患率については、沖縄県は平成 16-18 年の平均値を用いた。全国は平成 16 年の値を用いた。



(11)-2) 喉頭、皮膚、子宮(上皮内含む、除く)、子宮頸部、子宮体部

喉頭について、本県は男女とも全国値を下回る結果となった。子宮(上皮内含む、除く)については、20~70代の年齢層では全国を下回っているが、85歳以上では本県が全国を上回る結果となった。

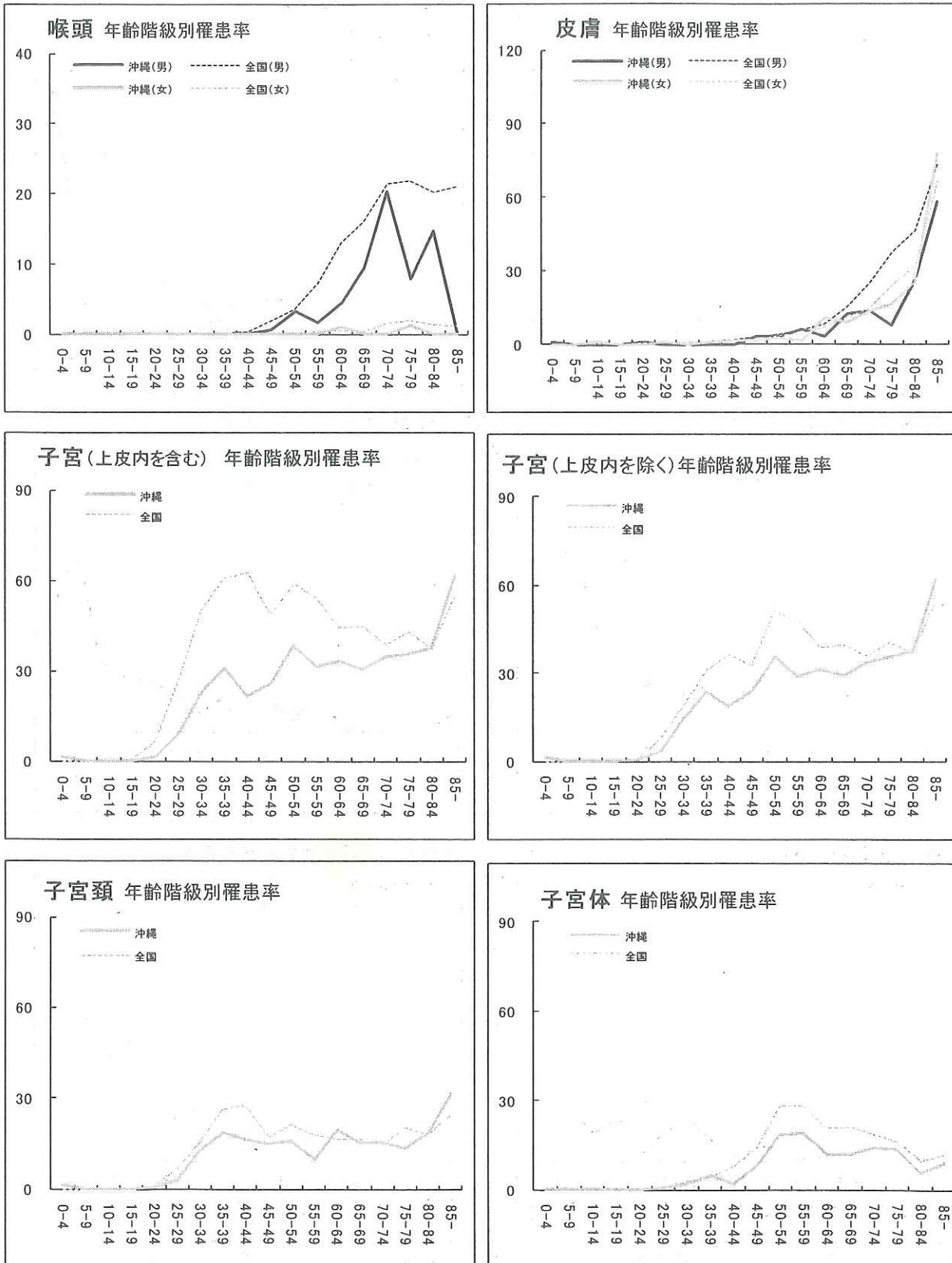


図8-2 主要部位以外等の年齢階級別罹患率比較(沖縄県、全国) (喉頭、皮膚、子宮(上皮内含む、除く)、子宮頸、子宮体) (人口10万対)

(11)-3) -卵巣、膀胱、腎など、脳神経系、甲状腺、リンパ腫-

膀胱、腎などについて、本県は男女とも全国値を下回る結果となった。脳神経系については、80代以上において本県が全国を上回る結果となった。

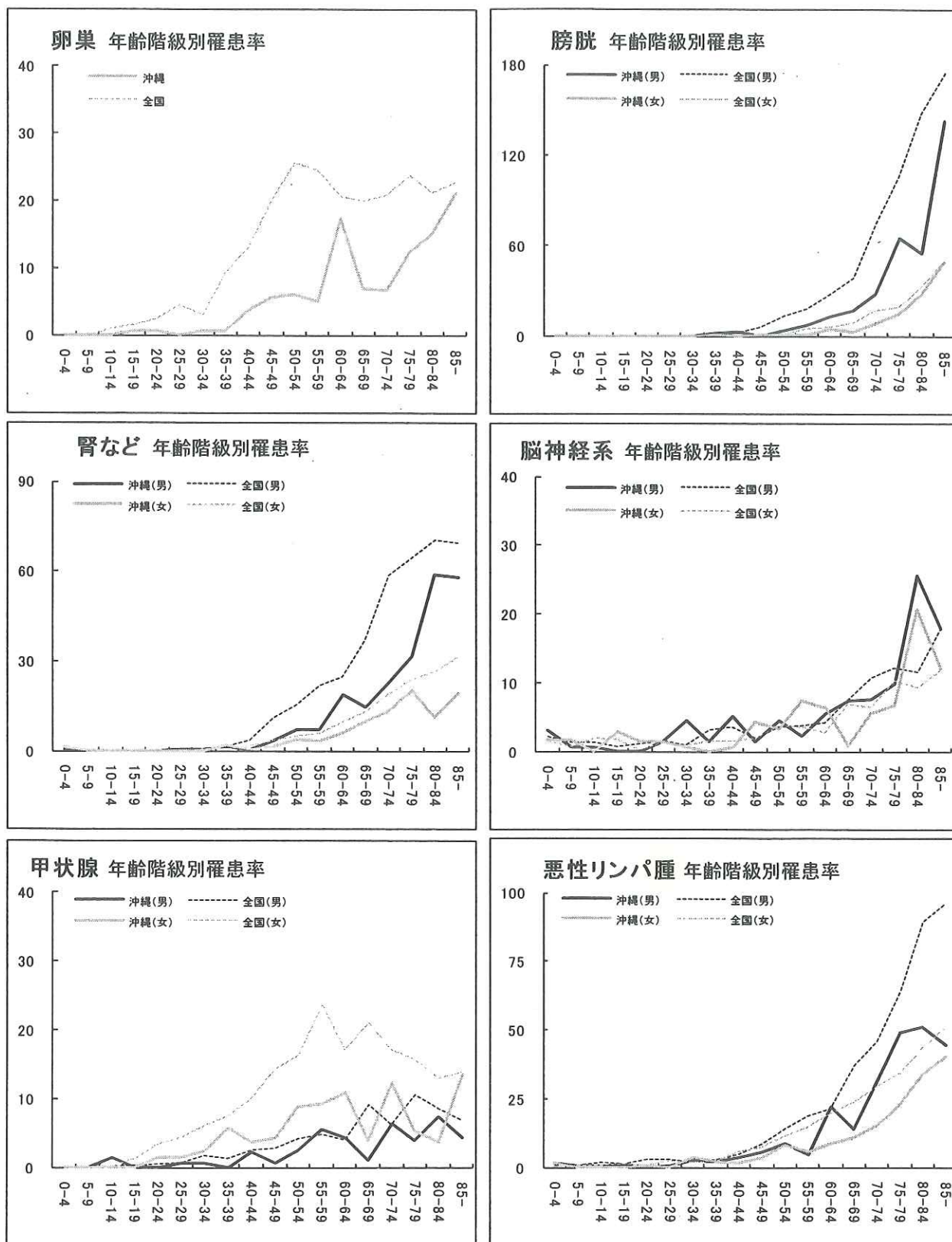


図8-3 主要部位以外等の年齢階級別罹患率比較(沖縄県、全国) (卵巣、膀胱、腎など、脳神経系、甲状腺、リンパ腫) (人口10万対)

(11)-4) -骨髄腫、白血病-

白血病については、本県は男女とも全国値を上回る結果となった。

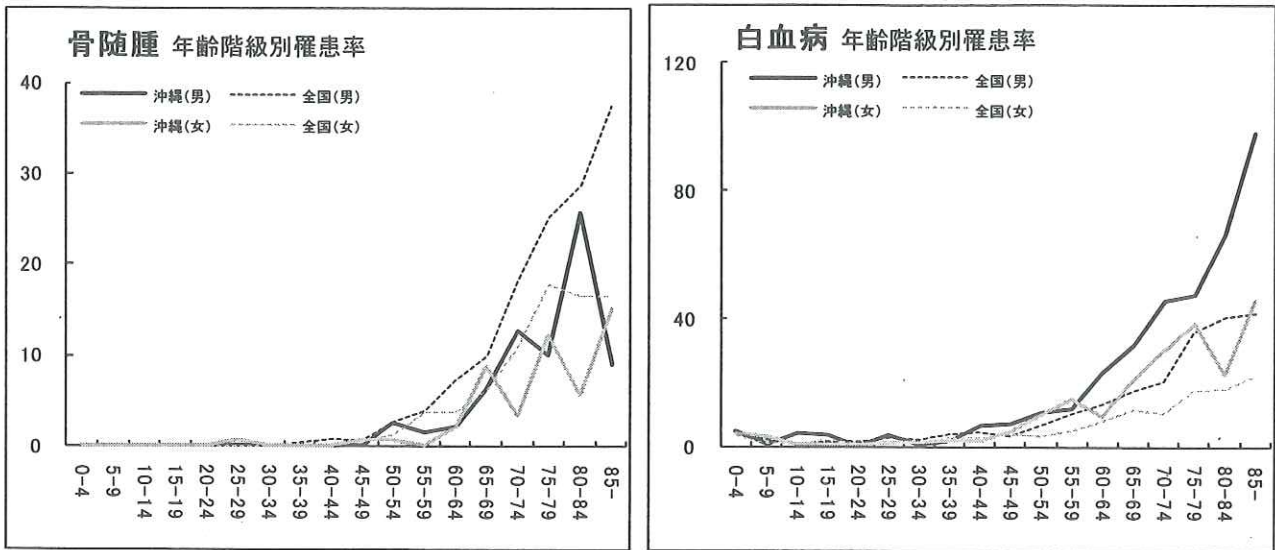


図8-4 主要部位以外等の年齢階級別罹患率比較(沖縄県、全国) (骨髄腫、白血病)(人口10万対)



(12) 診断方法、治療方法

(12)-1) 診断方法

死亡票を除いた届出票 1,868 件(男 1,021 件、女 847 件)についての診断状況は、診断根拠として最も重要な検査方法である組織診の実施率については、全部位では男性で 84.1%、女性で 81.2% であった。

肝臓、膵臓では、男性肝臓 28.9%、膵臓 23.1%、女性肝臓 35.3%、膵臓 22.2%と低い値となった。

表8-1 悪性新生物診断方法割合(男)

		確診年:平成18年										
ICD10	部位	罹患数	X線	内視鏡	組織診	細胞診	RI	超音波	剖検	臨床経過	CT	その他
C00-C96,D5,D6	全部位	1,021	59.1	64.8	84.1	23.9	21.9	42.5	0.2	0.6	72.3	34.1
C00-C14	口腔、咽頭	29	20.7	55.2	89.7	3.4	3.4	37.9	0.0	0.0	69.0	6.9
C15	食道	29	55.2	96.6	93.1	0.0	0.0	51.7	0.0	0.0	72.4	34.5
C16	胃	146	68.5	91.1	93.2	19.2	0.7	49.3	0.7	0.0	72.6	37.7
C18	結腸	169	48.5	88.2	95.3	10.1	2.4	39.6	0.6	0.0	59.2	37.3
C19-C21	直腸および肛門	90	61.1	88.9	97.8	11.1	2.2	43.3	0.0	0.0	68.9	48.9
C18-C20	大腸(再掲)	256	52.3	88.3	96.1	10.2	2.3	40.2	0.4	0.0	62.1	41.8
C22	肝臓	38	60.5	28.9	28.9	13.2	15.8	76.3	0.0	2.6	89.5	42.1
C23-C24	胆嚢、胆管	18	33.3	38.9	66.7	22.2	0.0	66.7	0.0	0.0	77.8	44.4
C25	膵臓	13	38.5	30.8	23.1	30.8	0.0	38.5	0.0	0.0	76.9	53.8
C32	喉頭	9	11.1	66.7	88.9	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	77.8	11.1
C33-C34	気管支、肺	247	85.8	71.3	70.4	49.4	61.5	25.1	0.0	1.2	89.1	26.3
C43-C44	皮膚	9	0.0	0.0	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C50,D05	乳房											
C53-C55,C58,D06	子宮※1											
C53-C55,C58	子宮 ※2											
C53	子宮頸(再掲)※2											
C54	子宮体(再掲)※2											
C56	卵巣											
C61	前立腺	79	44.3	2.5	93.7	12.7	44.3	59.5	0.0	0.0	69.6	67.1
C67	膀胱	27	40.7	59.3	88.9	55.6	3.7	66.7	0.0	0.0	33.3	7.4
C64-C66,C68	腎など	16	56.3	0.0	81.3	18.8	6.3	68.8	0.0	6.3	93.8	6.3
C70-C72	脳、神経系	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
C73	甲状腺	9	22.2	22.2	77.8	55.6	22.2	88.9	0.0	0.0	55.6	0.0
C81-C85,C96	リンパ腫	19	42.1	52.6	100.0	15.8	15.8	36.8	0.0	0.0	68.4	26.3
C88-C90	骨髄腫	4	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
C91-C95	白血病	23	60.9	13.0	87.0	34.8	26.1	56.5	0.0	0.0	73.9	21.7
	その他	44	31.8	43.2	93.2	20.5	15.9	38.6	0.0	0.0	54.5	25.0

※1:上皮内がん含む

※2:上皮内がん除く

表8-2 悪性新生物診断方法割合(女)

		確診年:平成18年										
ICD10	部位名	罹患数	X線	内視鏡	組織診	細胞診	RI	超音波	剖検	臨床経過	CT	その他
C00-C96,D5,D6	全部位	847	64.8	39.2	81.2	42.1	16.3	55.5	0.2	1.2	68.1	32.5
C00-C14	口腔、咽頭	7	28.6	14.3	100.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	42.9	0.0
C15	食道	5	60.0	100.0	80.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	80.0	40.0
C16	胃	74	73.0	90.5	93.2	27.0	8.1	47.3	0.0	0.0	74.3	37.8
C18	結腸	109	65.1	83.5	96.3	9.2	1.8	56.9	0.0	0.9	76.1	41.3
C19-C21	直腸および肛門	34	52.9	91.2	97.1	11.8	0.0	35.3	0.0	5.9	58.8	32.4
C18-C20	大腸(再掲)	139	61.2	84.9	96.4	9.4	1.4	51.1	0.0	2.2	71.2	40.3
C22	肝臓	17	47.1	17.6	35.3	17.6	5.9	76.5	0.0	5.9	88.2	52.9
C23-C24	胆嚢、胆管	24	66.7	37.5	62.5	33.3	4.2	70.8	0.0	0.0	83.3	12.5
C25	膵臓	9	77.8	55.6	22.2	22.2	0.0	88.9	0.0	0.0	100.0	44.4
C32	喉頭											
C33-C34	気管支、肺	113	90.3	74.3	64.6	50.4	66.4	26.5	0.9	1.8	93.8	29.2
C43-C44	皮膚	24	8.3	4.2	91.7	0.0	0.0	4.2	0.0	4.2	8.3	8.3
C50,D05	乳房	255	78.4	0.4	85.5	69.0	12.9	81.6	0.0	0.4	65.5	41.6
C53-C55,C58,D06	子宮※1	33	27.3	3.0	75.8	63.6	6.1	42.4	3.0	0.0	48.5	21.2
C53-C55,C58	子宮 ※2	32	28.1	3.1	75.0	62.5	6.3	40.6	3.1	0.0	50.0	21.9
C53	子宮頸(再掲)※2	14	14.3	0.0	57.1	78.6	7.1	28.6	0.0	0.0	28.6	28.6
	子宮体(再掲)※2	17	41.2	5.9	88.2	52.9	5.9	52.9	5.9	0.0	70.6	17.6
C56	卵巣	8	37.5	25.0	75.0	50.0	0.0	75.0	0.0	0.0	87.5	12.5
C61	前立腺											
C67	膀胱	12	33.3	75.0	75.0	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	41.7	0.0
C64-C66,C68	腎など	14	35.7	7.1	64.3	14.3	7.1	50.0	0.0	0.0	78.6	0.0
C70-C72	脳、神経系	6	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	50.0	0.0
C73	甲状腺	22	45.5	4.5	63.6	59.1	22.7	59.1	0.0	0.0	40.9	0.0
C81-C85,C96	リンパ腫	17	47.1	11.8	88.2	29.4	29.4	41.2	0.0	0.0	58.8	17.6
C88-C90	骨髄腫	3	66.7	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
C91-C95	白血病	20	45.0	5.0	85.0	55.0	10.0	40.0	0.0	5.0	65.0	35.0
	その他	41	36.6	41.5	85.4	29.3	7.3	39.0	0.0	2.4	46.3	31.7

※1:上皮内がん含む

※2:上皮内がん除く

## (12)-2) 治療方法

死亡票を除いた届出票1,868件(男1,021件、女847件)についての治療状況は、全部位では手術の実施率が最も高く男性で58.2%、女性で68.5%であった。

表9-1 悪性新生物治療方法割合(男)

確診年:平成18年

ICD10	部位名	罹患数	手術	放射線療法	化学療法	ホルモン療法	免疫療法	対症療法	その他
C00-C96,D5,D6	全部位	1,021	58.2	4.3	26.3	5.7	0.4	10.2	5.8
C00-C14	口腔、咽頭	29	62.1	13.8	6.9	0.0	0.0	13.8	6.9
C15	食道	29	31.0	6.9	27.6	0.0	0.0	17.2	6.9
C16	胃	146	71.2	1.4	16.4	0.0	0.0	9.6	4.8
C18	結腸	169	89.3	0.0	21.9	0.0	0.0	3.0	4.7
C19-C21	直腸および肛門	90	91.1	2.2	22.2	1.1	0.0	2.2	7.8
C18-C20	大腸(再掲)	256	89.8	0.4	21.9	0.4	0.0	2.7	5.9
C22	肝臓	38	34.2	0.0	23.7	0.0	0.0	28.9	26.3
C23-C24	胆嚢、胆管	18	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	11.1
C25	膵臓	13	15.4	0.0	53.8	0.0	0.0	23.1	7.7
C32	喉頭	9	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4
C33-C34	気管支、肺	247	34.4	10.9	41.3	0.0	0.4	17.0	3.6
C43-C44	皮膚	9	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C50,D05	乳房								
C53-C55,C58,D06	子宮※1								
C53-C55,C58	子宮※2								
C53	子宮頸(再掲)※2								
C54	子宮体(再掲)※2								
C56	卵巣								
C61	前立腺	79	38.0	0.0	1.3	70.9	1.3	1.3	6.3
C67	膀胱	27	100.0	0.0	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C64-C66,C68	腎など	16	81.3	0.0	6.3	6.3	6.3	6.3	0.0
C70-C72	脳、神経系	3	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
C73	甲状腺	9	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C81-C85,C96	リンパ腫	19	0.0	0.0	57.9	0.0	0.0	10.5	5.3
C88-C90	骨髄腫	4	0.0	50.0	75.0	0.0	25.0	25.0	0.0
C91-C95	白血病	23	4.3	0.0	87.0	0.0	0.0	8.7	0.0
	その他	44	68.2	2.3	20.5	0.0	0.0	11.4	2.3

表9-2 悪性新生物治療方法割合(女)

確診年:平成18年

ICD10	部位名	罹患数	手術	放射線療法	化学療法	ホルモン療法	免疫療法	対症療法	その他
C00-C96,D5,D6	全部位	847	68.5	4.3	26.3	11.6	0.8	9.0	4.4
C00-C14	口腔、咽頭	7	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
C15	食道	5	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
C16	胃	74	73.0	0.0	20.3	0.0	0.0	9.5	4.1
C18	結腸	109	91.7	0.0	24.8	0.0	0.0	4.6	3.7
C19-C21	直腸および肛門	34	88.2	0.0	14.7	0.0	0.0	0.0	0.0
C18-C20	大腸(再掲)	139	90.6	0.0	23.0	0.0	0.0	3.6	2.9
C22	肝臓	17	23.5	0.0	11.8	0.0	0.0	35.3	23.5
C23-C24	胆嚢、胆管	24	45.8	0.0	8.3	0.0	0.0	41.7	0.0
C25	膵臓	9	44.4	0.0	55.6	0.0	0.0	11.1	0.0
C32	喉頭								
C33-C34	気管支、肺	113	46.0	10.6	29.2	0.0	0.9	18.6	3.5
C43-C44	皮膚	24	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
C50,D05	乳房	255	80.4	7.5	30.2	37.6	1.6	1.6	2.0
C53-C55,C58,D06	子宮※1	33	60.6	6.1	12.1	0.0	0.0	9.1	15.2
C53-C55,C58	子宮※2	32	59.4	6.3	12.5	0.0	0.0	9.4	15.6
C53	子宮頸(再掲)※2	14	50.0	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	28.6
C54	子宮体(再掲)※2	17	70.6	0.0	11.8	0.0	0.0	11.8	5.9
C56	卵巣	8	62.5	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5
C61	前立腺								
C67	膀胱	12	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	16.7	8.3
C64-C66,C68	腎など	14	78.6	7.1	7.1	0.0	14.3	21.4	0.0
C70-C72	脳、神経系	6	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7
C73	甲状腺	22	81.8	0.0	0.0	4.5	0.0	4.5	13.6
C81-C85,C96	リンパ腫	17	23.5	5.9	58.8	0.0	0.0	5.9	11.8
C88-C90	骨髄腫	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
C91-C95	白血病	20	15.0	0.0	85.0	0.0	0.0	10.0	5.0
	その他	41	43.9	0.0	36.6	2.4	0.0	17.1	4.9

※1:上皮内がん含む

※2:上皮内がん除く



(13) 部位別、性別I/D(罹患数/死亡数)比 (平成18年)

平成18年の部位別のI/D比は、皮膚、乳房で高く、膵臓、口腔、咽頭で低い値となった。

表10 部位別、性別I/D比

ICD10	部位	罹患数			死亡数			I/D比(沖縄県)			I/D比(全国平成16年)		
		男女	男	女	男女	男	女	男女	男	女	男女	男	女
C00-C96	全部位	3,652	2,073	1,579	2,522	1,505	1,017	1.45	1.38	1.55	1.87	1.81	1.97
C00-C14	口腔、咽頭	80	66	14	82	70	12	0.98	0.94	1.17	2.05	2.16	1.80
C15	食道	84	76	8	71	65	6	1.18	1.17	1.33	1.51	1.51	1.52
C16	胃	391	259	132	224	145	79	1.75	1.79	1.67	2.17	2.25	2.02
C18	結腸	462	255	207	271	134	137	1.70	1.90	1.51	2.66	2.95	2.37
C19-C21	直腸および肛門	199	139	60	106	68	38	1.88	2.04	1.58	3.00	3.06	2.89
C22	肝臓	179	130	49	153	108	45	1.17	1.20	1.09	1.17	1.17	1.18
C23-C24	胆嚢、胆管	155	82	73	132	74	58	1.17	1.11	1.26	1.14	1.17	1.11
C25	膵臓	120	66	54	123	68	55	0.98	0.97	0.98	1.06	1.08	1.04
C32	喉頭	9	9	0	8	8	0	1.13	1.13	0.00	3.47	3.53	2.70
C33-C34	気管支、肺	725	498	227	587	419	168	1.24	1.19	1.35	1.31	1.26	1.42
C43-C44	皮膚	38	11	27	7	4	3	5.43	2.75	9.00	8.11	7.56	8.63
C50	乳房	300	0	300	80	0	80	3.75	0.00	3.75	4.08	-	4.37
C53-C55	子宮	72	-	72	55	-	55	1.31	-	1.31	3.12	-	3.12
C56	卵巣	32	-	32	35	-	35	0.91	-	0.91	1.80	-	1.80
C61	前立腺	127	127	-	70	70	-	1.81	1.81	-	3.62	3.62	-
C67	膀胱	80	50	30	52	33	19	1.54	1.52	1.58	3.10	3.45	2.34
C70-C72	脳、神経系	36	16	20	22	10	12	1.64	1.60	1.67	2.45	2.40	2.53
C81-C85, C96	悪性リンパ腫	84	44	40	78	38	40	1.08	1.16	1.00	1.88	1.84	1.93
C88-C90	骨髄腫	20	12	8	25	16	9		0.75	0.89	1.15	1.12	1.18
C91-C95	白血病	127	68	59	147	74	73	0.86	0.92	0.81	1.24	1.22	1.27

<参考>

・致命率の高いがん⇒I/D比は1に近くなるが、届出が少なくてもがん登録はがん死亡情報によって情報を把握することができ、登録率は高い。

・致命率の低いがん⇒I/D比は大きくなり、DCN(死亡情報によって登録室が初めて把握した患者)割合は低くなるが、届出体制が確立していないと登録率は低くなる。

出典: 国立がんセンターがん対策情報センター(Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center, Japan)

Web アドレス <http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/statistics/statistics.html> 内データ

全国死亡データ(平成18年) → 人口動態統計によるがん死亡データ(1958年～2006年)

データソース: 人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)

全国罹患データ(平成16年) → 地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975年～2004年)

データソース: 地域がん登録全国推計値

沖縄県死亡データ(平成17年) → 人口動態統計による都道府県別がん死亡データ

全がん死亡数・粗死亡率・年齢調整死亡率(1995年～2008年)

部位別死亡数・75歳未満年齢調整死亡率(2006年)

データソース: 人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)

(14) 保健所別、男女別、部位別検診受診件数(平成18年)

悪性新生物届出票の項目の、(17)受診動機で、「2.集団検診」及び「3.個人健康診断(人間ドックを含む)」に○印された届出票について、性別、部位別、保健所別に集計。男性で最も多いのは気管支・肺の39件、女性では乳房で69件であった。

表11 性別、部位別、保健所別検診受診件数

ICD10	部位	北部			中部			中央		
		男女	男	女	男女	男	女	男女	男	女
C00-C96,D05,D06	全部位	59	26	33	133	64	69	45	25	20
C00-C14	口腔、咽頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C15	食道	1	0	1	0	0	0	1	1	0
C16	胃	7	4	3	24	15	9	5	5	0
C18	結腸	10	8	2	21	15	6	8	4	4
C19-C21	直腸および肛門	2	2	0	12	10	2	3	2	1
C22	肝臓	1	1	0	0	0	0	0	0	0
C23-C24	胆嚢、胆管	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C25	膵臓	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C32	喉頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C33-C34	気管支、肺	12	10	2	30	18	12	16	10	6
C43-C44	皮膚	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C50	乳房	24	0	24	37	0	37	8	0	8
C53-C55,C58,D06	子宮	0	—	0	0	—	0	0	—	0
C56	卵巣	0	—	0	1	—	1	0	—	0
C61	前立腺	1	1	—	3	3	—	1	1	—
C67	膀胱	0	0	0	1	0	1	0	0	0
C64-C66,C68	腎、尿管等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C70-C72	脳、神経系	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C73	甲状腺	0	0	0	0	1	1	0	0	0
C81-C85,C96	悪性リンパ腫	1	0	1	0	0	0	2	1	1
C88-C90	骨髄腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C91-C95	白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	2	2	0	1	1	0

ICD10	部位	宮古			八重山			合計		
		男女	男	女	男女	男	女	男女	男	女
C00-C96	全部位	4	1	3	3	1	2	244	117	127
C00-C14	口腔、咽頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C15	食道	0	0	0	0	0	0	2	1	1
C16	胃	0	0	0	0	0	0	36	24	12
C18	結腸	0	0	0	0	0	0	39	27	12
C19-C21	直腸および肛門	0	0	0	0	0	0	17	14	3
C22	肝臓	0	0	0	0	0	0	1	1	0
C23-C24	胆嚢、胆管	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C25	膵臓	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C32	喉頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C33-C34	気管支、肺	3	0	3	3	1	2	64	39	25
C43-C44	皮膚	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C50	乳房	0	0	0	0	0	0	69	0	69
C53-C55	子宮	0	—	0	0	—	0	0	—	0
C56	卵巣	0	—	0	0	—	0	1	—	1
C61	前立腺	0	0	—	0	0	—	5	5	—
C67	膀胱	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C64-C66,C68	腎、尿管等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C70-C72	脳、神経系	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C73	甲状腺	1	1	0	0	0	0	0	2	1
C81-C85,C96	悪性リンパ腫	0	0	0	0	0	0	3	1	2
C88-C90	骨髄腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C91-C95	白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	3	0

(15) 全国標準の地域がん登録標準データベースシステムの導入について

(15)-1 全国標準の地域がん登録データベースシステムの導入のながれ

平成21年 7月 補正予算による予算措置承認

平成21年 8月 地域がん登録標準データベースシステム用のがん届出票を改定

平成21年 9月 地域がん登録データベースシステムのソフト及び機器(サーバー)のリース契約を締結

平成21年12月 国立がんセンターによる初期導入研修

平成21年12月 実際の届出票を地域がん登録データベースシステムに入力(稼働開始)



(15)-2 新しいがん届出票の様式及び記入要領について  
届出票様式 1

沖縄県悪性新生物患者届出票 秘

		事務局 使用欄		受付番号		使 事 務 局
				受付年月日		
医療機関	名称	照会先所属		届出者		
貴院患者ID		性別	生年月日			
ふりがな		1 男 2 女	0 西暦 1 明治 2 大正 3 昭和 4 平成		年 月 日	
姓・名 (漢字)						
診断時住所						
診 断 名	左右 両側臓器のみ記載	1 右 2 左 9 不明 3 両側 (卵巣, 腎芽腫, 網膜芽腫)		病理診断名		
	部位* 臓器名と詳細部位	(例 胃U, 肺S2, など)		詳細にお願い します		
	悪性リンパ腫は「主病変の部位」を記載		組織コード			
診 断 情 報	初発・ 治療開始後	1 初発 (自施設で診断かつ/もしくは初回治療) 2 治療開始後 (前医で当該腫瘍の初回治療を開始した以降)・再発				
	診断方法 (複数回答可)	1 原発巣の組織診 2 転移巣の組織診 3 細胞診 4 部位特異的腫瘍マーカー (PSA, AFP, VMA, 免疫グロブリン高値) 5 臨床検査 6 臨床診断			患者の全経過を通じて、がん と診断する根拠となった 検査に○ (初回治療前診断 に限定しない)	
	診 断 日	自施設 診断日	0 西暦 1 昭和 2006 年 1 月 15 日 2 平成		・初回治療前に自施設で実施した検査の うち、診断根拠の番号の最も小さい検査 の検体採取日や検査日 ・他施設診断の場合は、当該腫瘍自施設 初診日	
		初回 診断日	0 西暦 1 昭和 年 月 日 2 平成		他施設診断の場合、その診断日をわかる 範囲で必ず記入	
発見経緯	1 がん検診 2 健診・人間ドック 3 他疾患の経過観察中 4 剖検 9 その他・不明(自覚症状も含む)					
病 期	病巣の拡がり	0 上皮内 1 限局 2 所属リンパ節転移 3 隣接臓器浸潤 4 遠隔転移 9 不明			初発の場合、病巣の拡がりか UICC TNMのどちらかは必ず記入 (地域がん登録では病巣の拡がりを集計す る。病巣の拡がりに記入がなければTNM分 類やその他の情報からコード化する。)	
	UICC TNM*	T	N	M	ステージ	
	その他	深達度, 腫瘍径など病巣の拡がりの判定に役立つ情報があれば, ご記入ください。				
治 療 法	観 血 的 治 療	1 手術	1 有 2 無			
		2 体腔鏡的(胸腔鏡・腹腔鏡)	1 有 2 無			
		3 内視鏡的	1 有 2 無			
		上記治療を総合した治療結果	1 治療切除 2 非治療切除 3 治療度不明 4 姑息・対症療法 9 不詳			
	そ の 他 の 治 療	1 放射線	1 有 2 無			
		2 化学療法	1 有 2 無			
3 免疫療法		1 有 2 無				
4 内分泌療法	1 有 2 無					
9 その他	1 有 2 無 ( )					
死亡年月日	0 西暦 1 平成 年 月 日					
自由記載欄						

沖縄県悪性新生物患者届出票 秘

事務局 使用欄	受付番号
	受付年月日

医療機関	HP名											
貴院患者ID						性別	生年月日					
姓・名						1:男 2:女 3:他			0:西暦 1:明治 2:大正 4:平成			
診断時住所 (詳細)												
診断名	左右 両側臓器 のみ記載	1 右 2 左 3 両側	1-1 2-2 3-空欄 4-3	9 → 空欄 0 → 空欄 空欄 → 空欄	部位の 側性						病理 診断名 コード:	
	部位* 臓器名と 詳細部位 コード:											
診断情報	初発・再発	診断区分	1:初発 2:再発・治療開始後 3:疑い例				診断区分 (診断結果)	症例区分				
			※ 診断区分(診断結果が未 登録で、症例区分を登録 している場合は右の変換 を実施				1 → 1 5 → 1 2 → 1 6 → 1 3 → 1 8 → 1 4 → 2					
	診断方法	診断根拠	1:原発巣の組織診 2:転移巣の組織診 3:細胞診 4:部位特異的腫瘍マーカー 5:臨床検査 6:臨床診断				1 → 1※ 5 → 5 2 → 3 6 → 5 3 → 3 7 → 6 4 → 5 9 → 9 ※かつ病理組織標本由来が 2 → 2.上記でNull → 9	診断根拠	病理組織 標本由来			
診断日	自施設 診断日					診断日2	当該腫瘍 初診日	入院日				
	初回 診断日					※ 0:西暦 1:昭和 2:平成						
発見経緯	発見経緯<来院経路>	1:がん検診2:健診・人間ドック3:他疾患の経過観察中 ※発見経緯が未登 録で、来院経路を 登録している場合 は右の変換を実施				0 → 9 5 → 3 1 → 9 6 → 4 2 → 1 8 → 9 3 → 2 9 → 9 4 → 2 上記以外 → 9	発見経緯	来院経路				
病期	病巣の 拡がり	進展度<臨床進行度>	0:上皮内1:限局 2:所属リンパ節転移 3:隣接臓器浸潤 4:遠隔転移 9:不明				術後病理学的が 未登録 → [治療前] 8 → [治療前] 0-4,9 → [術後病理学的] 上記でNull → 9	進展度 [治療前]	進展度 [術後病理学的]			
		UICC TNM*	cTNM	ステージ	pTNM		ステージ					
	その他	治療前のステージ (主要5部位)				治療前のステージ (取扱い規約)						
治療法	観血的 治療	1 手術					1:有 2:無					
		2 体腔鏡的(胸腔鏡・腹腔鏡)										
	3 内視鏡的											
	◆ 上記治療を 総合した治療結果					1:治癒切除 2:非治癒切除 3:治癒度不明 4:姑息・対症療法 9:不詳 ※8→9						
※初回の一連の治 療についてすべ て記入	その他の 治療	1 放射線					1:有 2:無					
		2 化学療法										
		3 免疫療法										
	4 内分泌療法											
	9 その他の治 療					TAE	PEIT	温熱療法	焼灼	その他		
死亡年月日	※ 0:西暦 1:平成											
オプション												



記入要領

医療機関	自施設名称。正式名称記入が望ましい(ゴム印でも可)。照会先所属、届出者は問い合わせに使用。
貴院患者ID	貴院で患者固有に与えられている番号・記号。患者情報照会に使用。
姓・名 (漢字)	姓と名を別々に漢字表記で記入。重複登録を防ぐ大事な項目のため、イニシャル、カタカナ等の略記は避け、本名を記入。なお、漢字表記できない外国名の場合はカタカナ表記とする。
ふりがな	姓、名について、ふりがなを記入。
性別	性別を記入。
生年月日	生年月日を記入。西暦もしくは和暦(元号)、どちらでも記入可。
診断時住所	診断時に居住していた住所。市町村のみならず、マンション・部屋番号までのできるだけ詳細な住所を記入。
診断名	
左右	原発部位が両側臓器(肺・乳房等側性のある臓器)のみ記入。「両側」は卵巣・腎芽腫・網膜芽腫に用いる。その他の側性を有する臓器において、一方が他方の転移と判断されない腫瘍が左右に存在するとき、左右それぞれを独立した腫瘍として別々の届出票に記入。一方が他方の転移で、原発側が判断されない場合は「不明」とする。
部位	腫瘍の原発部位を、できるだけ詳細な情報を含んだ言葉で記入。固形腫瘍では、原発臓器名とその詳細部位を記入(例:「肺左上葉」、「結腸脾弯曲部」等)。転移性がんの場合は、原発臓器を記入(例:食道がんの肺転移の場合は、転移部位の「肺」ではなく、「食道」を記入)。原発が不明な場合は「原発不明」とする。  白血病の場合、診断部位は「骨髄」とし、病理診断名に「急性骨髄性白血病M2」等と記入。悪性リンパ腫の場合、診断部位は主病変の部位とし(例:胃の悪性リンパ腫の場合は、「胃」を記入)、詳細な診断名は病理診断名に「びまん性大細胞性B細胞型リンパ腫」のように記入。がん登録では、国際疾病分類—腫瘍学(ICD-O)を用いるのが世界基準であり(2009年現在第3版)、登録室では原発部位情報をICD-O-Tに基づいてコーディングしている。
部位コード	国際疾病分類—腫瘍学(ICD-O(2009年現在第3版))によるコーディング。
病理診断名	腫瘍の病理組織を、できるだけ詳細な情報を含んだ言葉で記入。病理報告に記入されている組織型を完全に記入することが望ましい。腫瘍の形状、腫瘍の性状(良性、良悪不詳、上皮内、悪性、等)、及び分化度(高・中・低・未分化)/リンパ性造血器腫瘍の場合の表面抗原(T-cell、B-cell、Null-cell)等を全て含む事が望ましい。登録室では病理診断名をICD-O-Mを用いて6桁の数字でコーディングしている。
組織コード	ICD-O-Mを用いて6桁の数字でコーディング。
診断情報	
初発・治療 開始後	初発、治療開始後・再発を区別するための項目。  ・初発:自施設において、当該腫瘍の診断、診断と初回治療、あるいは初回治療を実施した場合。  ・治療開始後・再発:他施設にて当該腫瘍の初回治療を開始した後、自施設にて患者を診療した場合。自施設・他施設を問わずに初回治療が完了した後、自施設にて患者を診療した場合(再発を含む)。

診断根拠	<p>当該腫瘍が悪性腫瘍であること、その原発部位ならびに病理組織の確定に際し、患者の全経過を通じて最も寄与した情報(初回治療前の診断に限定しない。他施設における診断情報も含む)。複数回答も可。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原発巣の組織診: 原発巣からの病理組織診断によるがんの診断、白血病の骨髄穿刺を含む。</li> <li>・転移巣の組織診: 転移巣からの病理組織診断によるがんの診断。</li> <li>・細胞診: 喀痰、尿沈渣、腔分泌物等による剥離細胞診、ファイバースコープ等による擦過、吸引細胞診、あるいは洗浄細胞診を含む。白血病及び悪性リンパ腫の一般血液検査も、この項を含む。</li> <li>・部位特異的な腫瘍マーカー: PSA、AFP、HCG、VMA、血清・尿中免疫グロブリン高値。</li> <li>・臨床検査: 画像診断(特殊撮影、造影全て。MRI、RI 検査、PET、超音波検査を含む。)、手術・体腔鏡下の肉眼的診断を含む。</li> <li>・臨床診断</li> </ul>
自施設診断日	<p>自施設において当該腫瘍の初回診断がなされた場合の届出では、初回治療前に自施設で実施した検査のうち、診断根拠の番号の最も小さい検査の検体採取日や検査日を記入(組織診検体採取日、細胞診検体採取日、腫瘍マーカー検体採取日、画像診断検査日の順で優先)。前医・他施設において当該腫瘍の初回診断がなされた場合の届出では、自施設の当該腫瘍初診日を記入。生前に存在が疑われていなかったがんが病理解剖によりはじめて診断された場合は、死亡日を自施設診断日とする。西暦もしくは和暦(元号)、どちらでも記入可。年月日まで記入。</p>
初回診断日	<p>前医・他施設において、すでに当該腫瘍の診断がなされていた場合の届出では、前医・他施設において当該腫瘍の初回治療前に"がん"と診断する根拠となった検査を行った日をわかる範囲で必ず記入。西暦もしくは和暦(元号)、どちらでも記入可。できる限り年月日まで記入。詳細が不明な場合でも、分かる範囲で記入。(例: 4 月上旬、4 月頃、春頃、2009 年頃等)</p>
発見経緯	<p>当該腫瘍が診断される発端となった状況を把握するための項目。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診: がんの早期発見・早期治療を目的とし、一連の定型的な検査を行う場合</li> <li>・健診・人間ドック: 健診は健康一般に関する審査(健康尺度の測定)を目的とし、一連の検査を行う場合で、人間ドックは個人を対象にして行う、より詳細な健康一般に関する診査</li> <li>・他疾患の経過観察中: 入院時ルーチン検査を含む</li> <li>・剖検: 剖検によってはじめて腫瘍の存在が発見された場合</li> </ul> <p>*自覚症状を持ちながらがん検診を受けがんと診断された場合は「がん検診」とする。</p>
病期	
病巣の拡がり	<p>病巣の拡がりとは、腫瘍の原発部位での拡がりの程度と、所属リンパ節・遠隔臓器への転移の有無に基づき、大まかに分類する方法である。術後病理学的診断による進展度が判明していればそれを優先し、無ければ治療前の進行度を用いる。ただし、腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法、あるいは免疫・内分泌療法等を施行の後、手術(体腔鏡的・内視鏡的手術を含む)を施行した場合は、治療前の進展度を優先する。再発では記載不要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上皮内: がんが原発臓器に局限しており、かつ上皮内にとどまるもの</li> <li>・限局: がんが原発臓器に局限しているもの</li> <li>・所属リンパ節転移: 所属リンパ節への転移を伴うが、隣接組織、臓器への浸潤がないもの</li> <li>・隣接臓器浸潤: 隣接組織、臓器に直接浸潤しているが、遠隔転移がないもの</li> <li>・遠隔転移: 遠隔転移があるもの</li> </ul>
UICC TNM	<p>域がん登録では、病巣の拡がりを集計している。病巣の拡がりに記入がなければTNM 分類やその他欄の情報から地域がん登録室の方でコード化する(よって初発の場合は、病巣の拡がりかUICC/TNM のどちらかは必ず記入する)。</p> <p>UICC(国際対がん連合)TNM: がん登録では病期分類として「UICC TNM 悪性腫瘍の分類」を用いている。</p>
その他	<p>深達度、腫瘍径など病巣の拡がりの判定に役立つ情報があれば記入。</p>



初回治療 観血的治療	当該腫瘍における一連の初回治療のうち自施設で実施したものを記入。再発では記載不要。
手術	自施設での初回治療における、外科的治療の有無を記入。(例:【包含】子宮頸がんの円錐切除術【除外】前立腺がんの去勢術→内分泌療法)
体腔鏡的	自施設での初回治療における、体腔鏡的治療の有無を記入。
内視鏡的	自施設での初回治療における、内視鏡的治療の有無を記入。
観血的治療 を総合した治 療結果	当該のがんに対する手術・体腔鏡的・内視鏡的治療を実施した場合のみ根治度を記入。初回治療として行った総合的な結果を記入。内視鏡的な治療を最初に行ったが、その後外科的な追加切除を必要とした場合は、外科的切除の根治度を記入する。根治度の記入は、組織学的に判断された根治度を用いるのが好ましい。組織的根治度が得られない場合、肉眼的根治度を用いる。 ※治癒切除、非治癒切除の定義:領域(所属リンパ節、隣接臓器)までの切除は以下のように定義する。 治癒切除 : 腫瘍を完全に摘除した場合(相対、絶対切除を含む) 非治癒切除: 腫瘍の切除が不完全であった場合(切除しきれなかった場合)
その他の治 療	
放射線	自施設での初回治療における、放射線治療の有無を記入。
化学療法	自施設での初回治療における、化学療法の有無を記入。化学療法については、定義が曖昧な部分があるが、免疫療法・BRM や内分泌療法を包含しないことに留意する。(例:【包含】ハーセプチンによる乳がん治療、肝臓のTAI)
免疫療法	自施設での初回治療における、免疫療法・BRM 療法の有無を記入。BRM(biological response modifier:生体応答調整物質)については、「腫瘍細胞に対する宿主の生物学的応答を修飾することによって、治療効果をもたらす物質または方法」いわゆる非特異的な免疫賦活療法を指すものとする。
内分泌療法	自施設での初回治療における、内分泌療法の有無を記入。内分泌療法とは、がん組織に対し、ホルモンバランスを替えることにより何らかの効果を求めた治療である。ホルモン投与、ホルモン代謝を拮抗する薬剤、抗ホルモン剤、エストロゲン依存性腫瘍に対する卵巣摘出術等がそれにあたる。(例:【包含】前立腺がんの去勢術)
その他	自施設での初回治療における、上記(手術～内分泌療法)以外の治療を記入。TAE(肝動脈塞栓術)、PEIT(経皮的エタノール注入療法)、温熱療法、レーザー等治療(焼灼)等を含む。
死亡年月日	死亡日が判明している場合、記入。西暦もしくは和暦(元号)、どちらでも記入可。

#### 4. 沖縄県悪性新生物登録資料の利用状況

平成 21年における沖縄県悪性新生物登録資料については、下記の利用申請・承認があった。

利用者氏名	申請者所属	研究内容	データ内容
津金昌一郎	国立がんセンター	・多目的コホートによるがん循環器疾患の疫学的研究	コホート対象者の調査開始以降に診断された罹患者の腫瘍データ
祖父江友孝	国立がんセンター	・がん罹患予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究	第1期モニタリングデータ 1993年から2003年の間に診断された罹患者の腫瘍データ